

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市 錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

例会会報

第2359回

平成19年4月17日(火) 曇り(本年度 第38回)

会長報告

丸山 隆志

先週・今週の行事について

● 4/14 (土)：第2800地区・地区協議会 米沢

* * *

鶴岡公園も桜が開花し、今週の週末は花見のピークかと思われます。又、松ヶ岡の水芭蕉、三川町の菜の花畑、酒田・八森自然公園のカタクリと、まさに春爛漫の季節を迎えました。皆さんも足を運んで自然に親しんで頂きたいと思います。

14日の地区協議会は我クラブから9名出席し、地区役員として、私と嶺岸さんが出席しました。

ウィルフリッドJ・ウィルキンソン次期RI会長テーマ：「ROTARY SHARES」ロータリーは分かちあいの心、大友ガバナーエレクト地区目標：「簡素な組織で豊かな奉仕」一地域の活力・地域に貢献一を掲げられ、協議が行われました。

大友年度の特徴は、地区行事において必ずロータリーの綱領の朗唱と四つのテストの唱和を地区幹事が行います。クラブの例会でこれを参考にする事も検討課題の一つかと思います。地区協議会をもとに、次年度の活動計画を作成して頂きたいと思います。

鶴岡RCの次年度ガバナー公式訪問日が7/31に決まりました。2006～07年次計画書、2005～06活動報告書を7月中旬に完成したいと思います。皆さんのご協力を宜しくお願い致します。

鶴岡RCがホストクラブになり、鶴岡4クラブ合同で受け入れる次年度青少年交換留学生の学生が決まりました。

ジョセフソン ガブリエル

生徒氏名：Josephson Gabrielle 女性

本国住所：アメリカ・オレゴン州・バンドン

生年月日：1990年12月13日

受入学校：羽黒高校

身元引受人、カウンセラー、及びホストファミリー(ホームスティー先)等をこれからお願い致しますので皆さんのご協力を宜しくお願い致します。

RI3080地区を訪ねて

会員スピーチ

富田 喜美子

(第2356・57回の続き)

朝食の何かが悪かったせいか、しばらくすると腹具合が悪くなり、ホテルにもどって休息する。その午後はスケジュールも余り入っていなかったので、幸いする。大会も終わり、翌朝まだ体調が回復しないまま、次のアンバラに向かう。ここ迄の道はひどく悪く、車の中でマスクとサングラスをつけたまま4～5時間の道のりで悪夢のような一日である。アンバラではチェアマンのヤシ・ダス氏に出迎えられメンバーが皆心温まるおもてなしを受ける。私のホストファーザーでもあり、いろいろ体調も気遣ってもらい嬉しい2泊3日である。5～6箇所に花を活けてやりとても喜ばれる。ここアンバラでも例にもれずRCのプロジェクトで建てた聾啞学校に行ったり町工場を見たり Engineering and Applied Researchの大学を訪ねたりする。

2/28(水)朝11:00頃にチャンディガールに向かう。この街はフランス人が設計したとのこと、緑も多く道路も広く整然としており、同じインドなのかと疑いたいほど。ここではメンバー5人個々に別れての研修があり、私は2つの女子大の心理学科に案内され、日本の文化、インドの印象などのスピーチを頼まれる。学生達も熱心に聴いてくれ、とても楽しい時間をすごす。チャンディガールに3泊し、シムラ、クフリに。山道を5時間ほど車に揺られて向かう。海拔2,500～2,700Mの高地に繁栄した観光地とリゾート地である。クフリにはガバナーのリゾートホテルがあり、一夜だけ快適なホテル生活を楽しむ。ここだけはまだ雪があり、とても寒く風邪をひく。その後シムラにもどって2泊する。例会への出席は勿論のこと。ショッピングを満喫する。シムラは英国人の避暑地だったとのこと。建物や街並みがイギリス式で異国情緒がいっぱい。

シムラではインドGSEチームメンバーのアジャ

イ氏がロータリアンになっており、我々を案内してくれる。次の地、ループナガールで2泊、PDGの案内で、RCのプロジェクトのホームレスシェルターや養護学校を訪ねる。再びチャンディガールに戻り2泊する。最後の例会出席と記者会見に臨む。最後の夜にはサンディープ・ルスラ氏主催の送別会があり、出席者にこの1ヶ月間のサポートとおもてなしへの感謝をこめてお別れの挨拶をする。

いよいよ日本へ帰る日の朝刊3誌に日本GSEチームの写真入りで大きくスペースをとる記事が載る。出迎えと同じくビジャイジャワ氏とサンディープ・ルスラ氏の見送りでデリーから日本に向かう。

以上のように、1ヶ月間、全く未知の地域を訪ね、人種の違う多くのRTNとの交流をして、どの地でも心から歓迎され、親切で素晴らしいおもてなしを受ける。人間としての情は皆同じでRTNとしての精神的な面でも一緒であると実感する。日本といえば、東京、大阪、京都、名古屋など知識としてわかっていたり、来たことがあるらしい。しかし東北地方のRI2800地区については我々の訪問で知ることになる。これも文化交流である。何と言ってもRTNは富裕層であり、それだけで社会的に高い評価をされている様子。彼らはロータリーに強い思い入れがあり、夫婦、息子の三人がロータリアンである家庭もある。ほとんどの家庭ではヘルパーを2～3人、多くて5人程度雇って家の中外の仕事を任せている。ある人がこのヘルパーを奴隷と呼ぶのを耳にした時には、驚きで昔のカースト制度などの名残かと思える。ヘルパー自身も自分の分をわきまえているように一生懸命に仕事をしている。又、RTNの立派な住まいのすぐそばにホームレスの人がいたり格差の一端を見る。力仕事に従事している人の収入はとても低く、又その他の貧しい親を持ち、才能があっても教育を受ける機会のない子供達の為に教育施設を作っているRCもある。

水事情も悪く、免疫のない我々はミネラル水をキープし、うがいや歯磨きにもそれを使う。シャワーも直径50cm高さ70cmほどのタンクのお湯を使うようになって、そのタンクが空になればしばらくは使えない不便さもある。又、ヒンズー教が80%以上というとても宗教的で敬虔なインド人であり、各所に立派な寺がある。その他を、仏教キリスト教がしめる。ヒンズー教は多神教であり、あるホストが「我々をゲストに迎えることは神を迎えることと同じなので、優しく親切にする」という。どの家庭にも神棚があり、毎朝20～30分のお祈りを欠かさない。仏壇はなく故人の写真を飾ってその人を偲ぶ。

一歩外に出れば、ゴミ、ゴミで、神として扱われている牛があちらこちらに、糞もあちらこちらに、人も車も牛を避けて通る。糞は乾燥させて燃料や肥料として使われる。山道には群れをなす野猿がおり、象にも、馬にも会う。とにかく色々な場面に遭遇しながらも、RI3080地区のRTNのサポートとRI2800地区のRTNの支援により、このGSEプロジェクトが完遂できたことをとても嬉しく思う。同時にメンバーの協力、働きにも拍手を送りたい。彼らもこの体験がいつかは自分の豊富な財産になると思うし、私自身リーダーとして決して楽しいことばかりではないものの、これからの人生に大きな糧となることと確信している。

●シーク教について

このGSEプロジェクトを進めるのに、現地のホストファミリーの大きな支えがある。4週間に我々はそれぞれ8つのホストファミリーにお世話になる。インドを訪れる迄は全く知らない人々だが、どのホストファミリーもとても親切で、暖かいおもてなし。垣間見る程度ではあっても、自分達と違う食生活や住生活にふれ、お互いに文化交流ができることは、GSEプロジェクトの素晴らしいところである。

どの家庭も、生活スタイルはウェスタン風で、昔、英国の植民地であったことをしのばせる感じ。又、どの家庭も複数のヘルパーが、内外の仕事をまかされており、家人はきれいにメーキングされたベッドに横になり、テレビを観たり、新聞を読んだり、準備された食事をとるといったところ。外出するときには部屋に鍵をかける人がほとんど。帰宅の時間はどんなに遅くなっても、門扉を開けて出迎える。ホストファミリーと一緒に朝食は、ポリッジ、トースト、バター、ジャム、茶、オムレツ、果物など辛くなくとてもおいしいもの。与えられたベッドルームは洗面所、トイレ、シャワー室が完備されており、一旦中に入れば全く独立状態になり、ホッとする時間でもある。夜には、わずかな時間ながら停電になり、びっくりするけれど、「これがインドよ!!」と彼らは慣れている。ホストファミリーは広い敷地に立派な家と広い庭があり、そこには、色とりどりの花が咲いている。しかも冬でも鑑賞できるのはびっくり。野菜、果物も日本と同じく豊富にあるが、南国のパパイア、マンゴー、デイツなどの果物はおいしい。水事情がよくないので、いつもミネラル水をキープして歯磨きやうがい、薬をのむ時に使う。

次に、インド特有のシーク教について。元はヒンズー教から分かれたもので、2%位の信者で男性は

ターバンを巻き、ひげをはやしている。幼児も男の子はかわいい布をかぶり、学生も同じである。家に戻るとターバンを脱ぎ取って髪の毛を長いまさらしている。ターバンの布の長さは5～8mもあり慣れた手つきでたくみに巻いていく。あの中に櫛を入れている人もいる。この宗教は身体に刃物を当てることが禁じられている為に生まれてから死ぬまで毛を切ったり剃ったりはしない。ターバンの色もネクタイの色などとコーディネートしておしゃれを楽しむ人も多い。このシーク教は15世紀初めインドの北西部のパンジャブ地方に興ったもので、Anampar Sahib (アナンパー・サヒブ) は15,000人位の小さい町でほとんどがシーク教信者でところどころに大きく真っ白い寺院が目立っている。ここでもロータリークラブの昼の例会に出席する。

このシーク教の特徴としては強固な教団組織で17世紀以降には軍事的集団もでき、軍人さんのターバンの色は青紫で彼らは武器を持っている。残念ながら行けなかったが、全部金でできている寺院もあり、それはとてもみごとなものらしい。寺院にはおまいりする信者が多く、独特なムードがある。彼らは朝晩2回お祈りし、名前の最後にはシンがつき、(ちなみに我々のドライバーもシーク教信者であり、名前はアンブリックシン。) その他インドには全人口の80%を占めるヒンズー教やわずかながらキリスト教、仏教などがあり、彼らの生活と深いつながりがある。

地区大会の場所であるハリドワールに行く途中にリシケシの昼例会に出席。このリシケシは人口125,000人で、ヨガで有名なところ。白人などの外国人も多く習いにきている。この町も又聖地であるので、人々はアルコールなし、ベジタリアンであ

るが、昼例会では我々の為に肉料理も出してくれる。ホテルなどは観光者が多いので、どんな料理も楽しめるらしい。

ハリドワールの次の訪問地アンバラは人口25万人の町で、陸空軍基地があり、夜中にも飛行機の飛来音がうるさいほど。又ここで作られる薬品は世界のあちこちに販売される。

3/4(日)に訪れた高地に栄えたシムラでは丁度ホーリーカラー祭があり、これはたくさんの色を全身につけ合って春を待つ楽しいお祭りであり、私ののっている車にもグリーンの粉をなげつけられ、わずかに開いていた窓から粉が入り、顔と洋服に少しかかる。

RI3080地区への限られた期間の訪問ではあるが、全く知らなかった数々の機会に会い、得がたい体験が出来たことは、我々チームメンバーには目には見えないが大きな財産になり、我々自身が大きく成長することは確定である。



委員会報告

出席委員会

委員長 迎田 健

本日の出席		前々回の出席	
会員数	47人	出席率	69.77%
出席数	31人	修正出席数	32人
出席率	72.09%	確定出席率	74.42%

●メイクアップされた方

阿部 純次君 藤川 享胤君 秦 幸助君
 本間喜美子君 本間 昭吉君 加藤 功君
 加藤 恒介君 丸山 隆志君 嶺岸 禮三君
 真島 吉也君 越智 茂昭君 佐々木喆彦君
 佐藤 孝子君 塚原 初男君

●ビジター 小池泰弘君(鶴岡西 RC)

スマイル

塚原初男君 ○先々週、小国 RC にメイクし、初めてロータリー綱領の唱和に参加しました。○先週、8日間の日程でトルコのイスタンブール大、エーゲ大、ユンヤ大を訪ねて、高海拔乾燥地帯の森づくりを視察して来ました。念願のカッパドキア観光も出来たので。

